

みんなの力を合わせた景観まちづくり

～ 事例集『事例に学ぶ景観まちづくり』より ～

ほんの数人（時にはたったひとり！）の思いや、ひとつの公共事業に始まった景観まちづくりが、時間を重ねるうちに少しずつ仲間も空間も広がっていき、大きなムーブメントに育っていった。そんなケースが全国各地にたくさんあります。ここでは、そのようなみんなの力を合わせた景観まちづくりの事例を少し紹介します。

あなたの小さな一歩が、たくさんの仲間をつくり出しながら大きなうねりに育っていくかも知れません。そう考えると、ちょっぴりワクワクしませんか？

景観まちづくりに
人と歴史あり。

伝統的な
景観を
取り戻そう

◆懐かしの「柿すだれ」の復活◆ 長野県高森町

農家の軒先に自慢の市田柿を干す「柿すだれ」の風景。この地方の深まりゆく秋の風物詩で、地域の自然、風土、季節、産業、生活などが一体となった、まさにふるさとの景観です。

徐々に失われていった柿すだれの景観を惜しむ1人の写真家の働きかけがきっかけとなり、再び柿すだれの景観が注目されてきました。旅行会社のツアーで訪れる観光客も増えているのです。



農産物などを扱う店舗の軒先を彩る柿すだれ。色鮮やかな橙色に目を奪われます。



蘭ミュージアムに飾られた柿すだれ。観光バスで訪れた観光客が何度もシャッターを切っています。

季節と笑顔が
ほころぶ
土の小径

◆条例を活かして住民が守り育てる小径◆ 東京都世田谷区

住宅地に残る全長300mほどの土の小径。この小径を地域の財産として育てたいという住民の願いを、行政が条例を活かしてうまく受け止めることで、小径を守り、育てる活動が始まりました。

草木の剪定や草花の植栽、小径を彩る季節の魅力を存分に活かしたイベントなど、少しずつ活動を広げながら、地域の資産となる景観まちづくりが進んでいます。



季節ごとにいろいろな表情を見せる小径。散歩する人が多いというのも納得の心地よさです。



みんなで小径の管理に精を出します。公道の小径ですが、管理協定に基づき、住民が管理しています。

まちを
磨けば
心も輝く

◆落書き消しできれいなまちづくり◆ 神奈川県平塚市

落書きに耐えかねた市民有志が、商店街の落書き消しにとりかかりました。まちが2002年のサッカーワールドカップのキャンプ地に決まったことも活動を盛り上げるのに役立ちました。

作業にはボランティアも加わり、ペンキ除去の指導や廃液処理などは塗料メーカーが協力しています。落書きを消した壁に子どもたちが壁画アートを描きます。アートのノウハウも蓄積中です。



みんなで落書き消し。ノウハウや溶剤などは、塗料メーカーの協力によるプロ仕様です。



きれいになった壁に子どもたちが夢いっぱい絵を描きます。まちへの愛着も深まりそう。

まちと里の
豊かな歴史を
活かしたい

◆水と時の流れを伝える景観まちづくり◆ 滋賀県近江八幡市

かつてまちの歴史とともにあった八幡堀。その埋立工事が着手されようとした時、「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」と、埋立反対の運動が起きました。粘り強い努力を経て、八幡堀の再生へとまちづくりの舵が切られたのです。

地道な堀の清掃活動に始まった再生の道は、少しずつ理解者と仲間を増やしながら発展。豊かな水郷風景の保全や、歴史的なまちなみの保存修景など、八幡堀にとどまらない幅広い景観まちづくりが志されるようになりました。

八幡堀では石垣の復元、石畳の遊歩道や親水広場の整備などが行われ、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された周辺の歴史的なまちなみでは町家の修理・修景が進められます。さらに、水郷風景も国の重要文化的景観の指定を受けるなど、まさに景観まちづくりのトップランナーです。



迷惑がられていた頃が想像できない現在の八幡堀。水面に近づける通路なども整備されています。



重要伝統的建造物群保存地区に指定されている歴史的なまちなみ。住み手の努力が歴史を伝えます。



伝統的な建物が並ぶ水辺は、舞台のような晴れやかな景観です。思わずしばし佇んでしまいそう。



水郷の景観は、この地域の魅力であり誇りです。国の重要文化的景観の第1号に指定されました。

輝く駅から
まちの夢が
走り出す

◆公共事業と市民の想いで紡ぐ新しい景観◆ 宮崎県日向市

平成18年12月、美しくデザインされた新しい日向市駅が完成しました。これは、とても息の長いまちづくりの一部。鉄道の高架化事業と駅舎整備、駅周辺の土地区画整理事業、駅前商業地の活性化を三位一体で行っているのです。多くの人の連帯と協働が欠かせません。

初期段階から事業者や市民等と行政が議論する場を設けるとともに、土木設計家を座長とする都市デザイン会議で事業面での徹底的な議論を重ねながら、プロジェクトが進められました。地場産材の杉を活用するための木材ワーキングと材料実験もこの成功を支えています。シンポジウムや小学校の特別授業など、新しい景観まちづくりを世間に伝えることも忘れません。

駅を中心とする美しい舞台の上を、日向市民の新しい景観まちづくりの夢がまた走り始めます。



空に溶けていきそうなガラスと地場産の杉でデザインされた駅舎は、日向の新しく美しいシンボル。



駅前広場も新しくデザインされた空間。街の人たちのいきいきとした生活の舞台となっています。



パティオ事業でつくられた駅前の商業街区。日だまりのパティオ（中庭）は市民の憩いと交流の場。



新駅開業イベントには、子どもたちが授業でつくった屋台も登場。地場産材の杉でできています。



景観まちづくりは一人ひとりの努力と多くの人たちの力を合わせた協働がカギです。そのような努力を応援する制度が充実してきています。

まちや景観は、そのまちに暮らす人たちやそのまちを訪れる人たち、みんなの資産です。従って、景観まちづくりに取り組む際にも、周りへの気配りは大切です。時にはある程度の我慢が必要になることもありでしょう。また、都市計画法や建築基準法など、一定の規制もかけられています。しかし、ここで紹介したような景観まちづくりは一人ひとりの思いが込められた努力の賜物です。景観法をはじめとして、地域に根ざした豊かな景観まちづくりを支援する制度が充実してきています。みなさんもぜひ景観まちづくりに取り組んでみてください。